

英 語 科

教科の重点目標 自立した学習者の育成のために ～アクティブラーニングを活用した授業の展開を目指す～

	学習指導に関する現状と課題	授業改善のための具体的な取組	補充・発展的な学習指導の計画（具体的な取組の目標値や評価規準等）	今年度の評価（成果と課題）
第1学年	<p>◎考える力を育てる観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業には積極的に活動に取り組む生徒が多く見られる。特に動詞カルタやペアワークはパートナーと協力して行い、楽しんで参加している。 <p>《聞くこと・話すこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の絵に関する英語の質問に答える活動では、既習事項を繰り返し使用することにより、徐々に学習内容が定着してきている。英語を「聞くこと」「話すこと」に関しては間違いを恐れずに取り組んでいる。 ・英語で授業を受けることにより、長い英語の話の聞き続け、理解しようとする姿勢が身についてきた。 <p>《読むこと・書くこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読むことに関しては、ほとんどの生徒が発音を意識して教科書を音読できるようになっている。しかし、一部にまだ音と文字の一致が難しい生徒が見られる。 ・課題点は、書くときは声に出し発音しながら書くというルールがなかなか徹底されない。また、ワークや問題演習を自主的に行う姿勢を育てる必要がある。 <p>◎生徒による授業評価からの観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ペアやグループでの話し合い活動を通して考えが深まった。」「以前に比べて英語が聞き取れるようになった。」の項目では90%以上の生徒が肯定的な回答をしていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も引き続き、ペアやグループで協働しながら取り組む活動を継続する。 ・教科書の絵について質問して答える活動では、単語ではなく文で答えを言えるよう指導する。また、英語の即興性を育成するため、話したことにもう1文付け加える活動を取り入れる。 ・答えが正解でなくとも、答えようと試みたことを認め、引き続き間違いを恐れずに話そうとする姿勢を育てる。 ・今後も授業で英語を使用する環境をつくり、英語を聞くこと・話すことへの抵抗感を抑える。 ・音読は授業の中で重点的に扱う。主体的に音読をすることができるために、個別に確認をし、正確に読めるように指導する。また、引き続き宿題として課し家庭学習の定着を目指す。 ・授業の中でワークや問題演習を扱う時間を増やし、家庭学習の定着を目指す。 ・今後もペアやグループで活動することにより、お互いに学び合い認め合う環境をつくっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数授業の中で個々が発言できる回数を増やす。 ・年間を通し、授業の始めにBINGOを行い、英語の音と文字の一致の練習をする。また、英語の歌を扱うことにより、興味・関心を引き出す ・英会話練習の中で、質問の答えにもう1問付け加え、まとまりのある文を話しことで伝えられるようにする。 ・学期に1回以上パフォーマンステストを行う。「発表」の領域ではスピーチスキットを行い、「やりとり」の領域ではAETとのインタビューテストを行う。 ・パフォーマンステストの後にはその映像をクラスで見る機会を設ける。それにより、自分に不足している部分が客観的に理解できるようにする。 ・12月前半までは音読の指導を徹底し、12月中旬からライティングノートの指導を始め、書くことに重点をおく。英文を沢山書くことに慣れさせ、書くことへの抵抗感を抑える。 ・毎回の授業の中で1回以上辞書を使用する場面を設定し、自立した学習者の育成につなげる。 	

